

# 令和元年度補正予算の概要（消防庁関連）

## 総務課

令和元年度補正予算が、1月30日（木）の参議院本会議において、賛成多数で政府案どおり成立しました。昨年12月5日に閣議決定された「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」の下、追加歳出の規模は4兆4,722億円となっています。

その中で消防庁関係では、緊急消防援助隊の車両・資機材の整備や消防庁ヘリコプターの復旧、防災行政無線の戸別受信機の導入促進、Jアラート等の機能強化など、35.2億円を確保したところです。本稿では、その概要について解説します。

### 1. 緊急消防援助隊の装備の充実

高機能救命ボート、水上オートバイ、情報収集活動用ドローン、拠点機能形成車の整備により、近年頻発している大規模水害等への対応能力を充実強化するため、3.6億円を計上しています。

#### ①高機能救命ボートの整備

豪雨災害時等に救助活動を安全かつ効果的に行うための高機能な救命ボートを整備するため、1.7億円を計上しています。

#### ②水上オートバイの整備

救命ボートでの活動が困難な場合にも、迅速かつ効果的な救助活動を展開できるよう、頑丈な船体と機動性・操作性に優れた水上オートバイを整備するため、0.2億円を計上しています。



【高機能救命ボート】



【水上オートバイ】

#### ③情報収集活動用ドローンの整備

大規模災害時における迅速な情報収集体制の構築として、情報収集活動用ドローンを整備するため、0.5億円を計上しています。

#### ④拠点機能形成車の整備

緊急消防援助隊の現場活動を支援するための後方支援車両として、拠点機能形成車を整備するため、1.3億円を計上しています。



【情報収集活動用ドローン】



【拠点機能形成車】

### 2. 消防大学校における訓練の充実強化

消防学校教官等の教育訓練指導者に対する火災進展状況や緊急退避の判断力を養う訓練の充実強化として、消防大学校に新型実火災体験型訓練施設を整備するため、0.9億円を計上しています。



従来施設と合わせて2基体制により訓練可能人数を増強、安定的運用



耐熱性カメラにより内部映像を中継

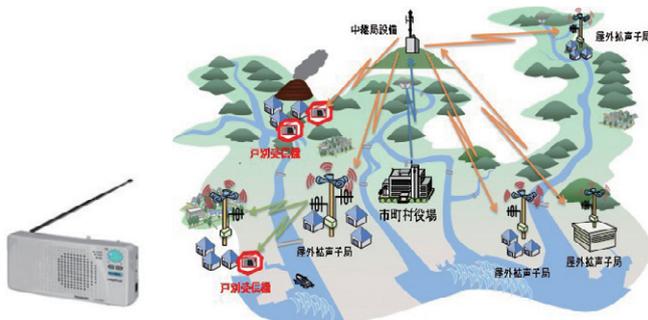
【実火災体験型訓練（ホットトレーニング）】

### 3. 消防庁ヘリコプターの復旧

令和元年台風第19号により、点検整備中であった消防庁ヘリコプター1機が機体を損傷する被害を受けたため、復旧に要する経費として19.7億円を計上しています。

### 4. 防災行政無線の戸別受信機の導入促進

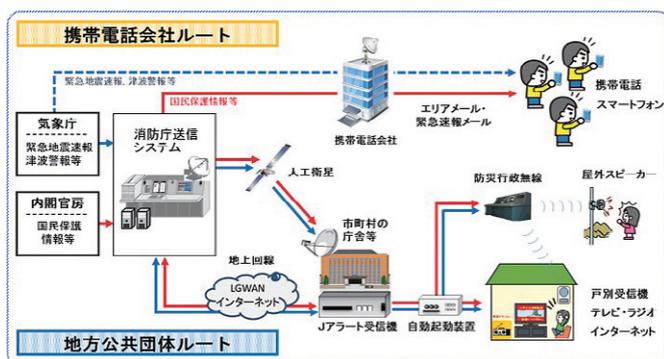
令和元年台風第19号などの風水害において、屋外スピーカーのみでは、住民に対し十分に情報を伝達することができない場合があったこと等を踏まえ、戸別受信機の配備が進んでいない市町村を対象に無償貸付による配備の支援を行うとともに、実機を用いたデモンストレーションを行うなど、その導入を促進するため、4.2億円を計上しています。



【戸別受信機の導入促進】

### 5. Jアラート等の機能強化

近年、大規模地震、豪雨等の自然災害が多発する状況を受け、地方公共団体等のニーズを踏まえ、国民に対する基幹的な情報伝達手段であるJアラートの機能強化のため4.6億円、また、災害情報等の集約・共有等に必要なシステムを整備するため、1.2億円を計上しています。



【Jアラートの機能強化】



【消防庁所管システムの整備（イメージ図）】

### 6. その他

令和元年台風第19号の際に消防組織法に基づく消防庁長官の指示により出動した、緊急消防援助隊の活動費を負担するため、1.0億円を計上しています。

問い合わせ先  
消防庁総務課  
TEL: 03-5253-7506